

事務局長談話

令和6年6月24日

世界の核兵器保有数と動向について

核兵器廃絶・平和建設国民会議
(略称 KAKKIN)

事務局長 岩附 宏幸

ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)は6月17日、2024年版の「SIPRI年鑑(SIPRI Yearbook)」を刊行し、その中で2024年1月現在の各国の核兵器(核弾頭)保有数(推定値)を発表した。

国	2023年1月	2024年1月	前年比
アメリカ	5,244	5,044	-200
ロシア	5,889	5,580	-309
イギリス	225	225	0
フランス	290	290	0
中国	410	500	90
インド	164	172	8
パキスタン	170	170	0
イスラエル	90	90	0
北朝鮮	30	50	20
合計	12,512	12,121	-391

世界全体の核弾頭の数は一昨年より391発減少し、12,121発となった。しかしながらSIPRIは、運用可能な核弾頭数は年々増加し続け、核兵器開発が各地で進み「各国が核抑止力への依存を深めている」と懸念を示している。とりわけ中国は昨年より90発増え、「どの国よりも核戦力を速く拡大させて」おり、核弾頭の運搬手段である大陸間弾道ミサイル(ICBM)についても、将来的にはアメリカやロシアに匹敵するほどの数を配備する可能性があるという。

一方、北朝鮮は昨年より20発増の50発を保有し、最大90発の核兵器製造に十分な量の核分裂性物質を確保しているとみられ、核弾頭数は今後も増加が予想される。またロシアは5月にウクライナ国境近くで戦術核兵器を用いた軍事演習を行った。

このように核兵器をめぐる世界情勢は依然として厳しい状況が続いている。残念ながら今すぐにこの状況を変えることは難しいが、そのような中であって大事なことは、やはり私たち一人ひとりが核兵器と世界情勢に関心を持ち、声を上げ続けることだと思う。KAKKINは4月、外務省と国民民主、立憲、公明、自民の4政党に対し核兵器廃絶に関する要請を行った。6月には研修会で核軍縮・核廃絶の講演を聞いた。そして8月には広島、長崎で平和集会を開催する予定である。核兵器廃絶に向け、引き続き粘り強く取り組んでいく。

以上